

二番茶における摘採適期の予測技術について

農業研究部

1. 研究の背景

茶栽培では、摘採時期が遅れるほど収量は増加するが品質は低下する。品質と収量のバランスがとれた摘採適期を予測するには長い経験が必要であり、茶園ごとの摘採時期の判断に苦慮している。そこで、これまでの一番茶の摘採適期の予測に続き、二番茶の予測方法の確立に取り組んだ。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- 1) 摘採までに生葉収量は一日あたり前日比約112~125%の速度で増加し、NDF（中性デタージェント繊維）は前日対差約0.8%増加、全窒素は約-0.12%の速度で減少することが明らかとなった。これは、主な多収品種である「おくみどり」、「おくゆたか」、「さやまかおり」、「ふうしゅん」、「めいりよく」、「やぶきた」の調査結果ではNDFと全窒素は概ね同じ傾向である。二番茶の生葉収量は、一番茶期と異なり品種により増加速度に差がある。
- 2) 摘採適期を予測するには、2~3葉期頃に枠摘み調査を行い、収量、成分を測定し、予測式にあてはめる。
- 3) 予測式については以下のとおりである。

$$X = (\text{目標NDF} - \text{実測NDF}) \div 0.8 \Rightarrow X \text{ 日後に摘採する}$$

たとえば、NDF18%の時期に摘採したい場合、新芽のNDFが14%であれば、 $(18 - 14) \div 0.8 = 5$ で5日後に摘採すればよいというふうに予測する。

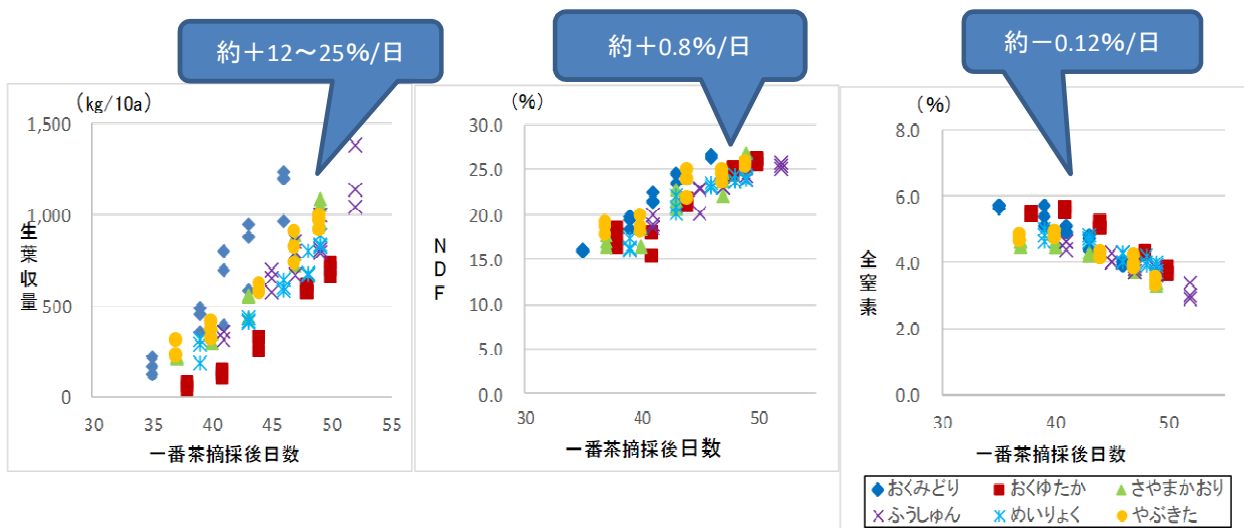


図 期間中の生葉収量、NDF、全窒素の推移（2018年 豊後大野市三重町）

3. 期待される効果

摘採作業を計画的、効率的に行うことが出来るようになるとともに、県産茶の品質向上につながる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 葉根菜類・茶業チーム
TEL：0974-28-2082
住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8